

首のない母親

戦争になると
首のない母親が
至る所で見現する

我が子を
抱きかかえながら
首だけが
吹き飛ばされているのです
しつかりと守った両の手が
硬くなつて
赤ん坊がその中で
泣いているんですよ
何日も何日も
どんな戦争も
遊びなんかじゃない！
遊び心ではないのです！

耐えられますか
村が全滅し
物言わない
首の無い母親と
泣いている赤ん坊の
響きの中を
人生の道をあなた！

歩けますか 歩けますか

1935/06/07

臓器のない村

空はどこまでも澄み渡り
濃紺の空が色高く透り
真綿の白雲は浮かび流れ
遠く地平線まで伸びた
野畑の茂みが風にたなびいている

村人たちは
日の昇りとともに
畑へと汗を流し
日没とともに
家々は燈火の下で
家族は団欒と憩う

おお母なる緑成す大地よ
おお豊かなるその大地の恵みよ
太陽の光りをさんぜんと浴び
文明より遠く離れた未開の地に
建設の槌音が響き渡る
村の家々は新しく建て代えられ

水道も電気も無い村に

どの家も自家発電がうなり

日課の水汲みは遠い思い出となつた

電燈の明かりに

村人たちは人間の文明の香りを

忍び寄る夜の闇へ誇示した

村人たちの

臓器は片方が無かつた

男も女も

臓器を文明に引き渡し

今日も

村の家が新しくなつた

ああ人間の建てたる文明よ

果てしなく幸福を求める人間よ

空は遠く遠く澄み聖み

濃紺の色は高く高く透り

白雲は浮かび流れ

遠く地平線まで伸びた

野畑の茂みが風にたなびいている

1935/06/18

子供が消える文明

いつだってどここの文明だって
行方不明の子供がいる

私たちの文明だってそれはもう
沢山の子供が行方不明になっている

ひとりの子供がいなくなつて
入院している男の臓器が甦つた

地位やお金を持つている人が
生きて行く事ができるのです

いつだってどここの文明だって
子供の行方不明は有つた

私たちの文明だって
それはもう同じなのですわ

人間の生きるって
動物よりも恐ろしいですか

人間が作りだしている文明が
怖く怖く受け取りますか

子供が消える文明は
動物の世界だって凄じいですよ

でもね慣れたらあなた
あなたの臓器は本物ですか

子供がひとりずつ消える文明ってね
未来がひとつずつ消える事です

1995/06/21